

倉吉が変われば
鳥取が変わる



鳥取県議会議員

鳥羽 喜一

とば きいち —活動報告書—

倉吉の未来のために

常任委員会として、農林水産商工常任委員会に所属し、副委員長を務めることになりました。

農林水産商工常任委員会では、倉吉市の基幹産業である農林の振興や昨今の物価高騰を受けた事業者への支援金の策定や企業誘致等を管轄しております。また、議会だより作成のための広報委員会にも所属しており、議会での活動を倉吉の皆様にはしっかりとお伝えできるよう取り組んで参ります。



●プロフィール●

愛児園、倉吉幼稚園、成徳小、鳥大附属中、倉吉東高（硬式野球部所属）、早稲田大商学部、東京海上、リクルート、慶應大学院 MBA

連絡先

TEL090-4149-6927

〒682-0886 倉吉市大正町1078-3

kiichi.toba@gmail.com

5月定例会 一般質問

●安心して子育てができる医療体制の構築について (小児医療費無償化の課題とクリニック開業の補助金制度創出の提案)

【質問】

小児医療費無償化は、子育て環境を充実させるために効果的な取り組みであるが、コンビニ受診※1が増加するという実証実験・統計データ（ゼロ価格効果の発生※2）もあり、中部地区においては小児科クリニックがない地域もある中において、医療の逼迫を招く可能性がある。また、従前より、特に中山間地域において地域医療の脆弱性が存在している。

北栄町のクリニック誘致のための補助金制度を参考にしながら、鳥取県独自のクリニック誘致のための制度設計を検討できないか。

【答弁（知事）】

医師会や薬剤師会、歯科医師会を交えて小児医療費無償化についてのワーキンググループを発足させ、医療の逼迫を招かないよう対策を更に強化していく。

人口当たりの小児科医の数自体は全国で最も多いが、地域によって偏在しており、特に中山間地域においては医師の確保は課題である。医師不足解消のための政策を、来年度当初予算に考えていきたい。

※1 緊急度が低い軽症患者が緊急外来に受診すること。

※2 無料になると需要が大きく伸びる現象のこと。

●中部の県立高校の現状について (中部の高校の定員割れと倉吉東高校バカロレア)

【質問】

中部圏域の生徒が東西部の高校進学で流出（昨年度は100人を優に超える生徒が中部から東西部に進学）をしており、中部の高校の定員割れが続いている（過去2年では全ての中部の高校が定員割れを起こしている）。この現状をどのように捉えるか。

また、中部の高校の起爆剤の一つが倉吉東高校のバカロレア※3であると考えが、海外大学への進学の学費が家計に与える影響は大きい。県としても、発意ある海外大学への進学を希望する生徒への奨学金を創出するべきであると考えが如何か。

※3 鳥取県が倉吉東高校に新たに設置した、海外大学の受験資格を得ることのできるプログラムを含んだ教育課程。

【答弁（教育長）】

中部の高校の空洞化を非常に危惧している。中学校との連携をより強固にしながら、地域の中学生や保護者に県立高校の存在意義を伝えられるよう、肝に銘じて取り組んでいく。

現時点ではバカロレアにおける海外大学進学のための奨学金創設は難しいと考えるが、既存の奨学金の情報提供をしっかりと行いながら、経済的支援についても学校とも協議をしていく。

その他の活動

【バス通りの運搬除雪】

倉吉市議会議員時代の一般質問での提案（2022年9月議会）が、本年2023年1月大雪時の運搬除雪（トラクターショベル等でトラックに雪を載せ、雪捨て場に捨てる方式）に繋がりました。

バス通りは、他の道路に比べて車道・歩道が極めて狭く、除雪が非常に困難な場所でありましたが、倉吉市と県の連携により、県内ではこれまでに類を見ない方法での除雪が行われ、従来よりも短時間で交通障害を解消することができました。

【倉吉総合産業高等学校野球部グラウンドの浸水】

総産野球部のグラウンドが隣の水路（市有地）から水が染み出ることにより、時には外野グラウンド一面が浸水するなど練習に支障が出るほどの被害が出ておりました。

倉吉市と連携し、この水路の補修を行うことで、浸水被害を解決することができました。

